

Ⅶ. 研究成果の発信および社会との連携

1. 研究会およびシンポジウム

1) 社研セミナー

開催日	題 目	報告者
2008.4.15	「契約の本性」の法理論	石川博康 (社会科学研究所)
2008.5.13	認知療法の社会科学への応用可能性について	関沢洋一 (社会科学研究所)
2008.6.17	特殊的資産と統合戦略：明治期の運炭鉄道建設と輸送契約	中村尚史 (社会科学研究所)
2008.7.15	The Process of Judicial Modernization in Japan: Osatake Takeki's Critical Perspective (日本の司法近代化プロセスと尾佐竹猛)	Dimitri Vanoverbeke (ルーヴェン・カトリック大学/社会科学研究所客員教授)
2008.9.9	Physical, general, or specific human capital?: Transition of wage system in Japanese steel industry	中林真幸 (社会科学研究所)
2008.10.21	The Anatomy of Corporate Social Responsibility in Japan	Verena K. Blechinger-Talcott (ベルリン自由大学東アジア研究所/社会科学研究所客員教授)
2008.11.18	Disasters and Markets: Commodities and Commercial Transactions after the Great Kanto Earthquake of 1923	Janet Hunter (ロンドン大学 LSE 経済史学部/社会科学研究所客員教授)
2008.12.9	全所的プロジェクトの意義と課題：CREP と希望学の運営をつうじて	中村民雄 (社会科学研究所)・玄田有史 (社会科学研究所)
2009.1.13	若年・壮年層の住宅取得と家族の役割	村上あかね (社会科学研究所)
2009.2.10	二つの〈こどもの日〉：歴史的記念日の語り方をめぐって	韓栄恵 (ソウル大学校日本研究所/社会科学研究所客員教授)
2009.2.17	〈新たな正戦論〉と国連憲章体制：国際的暴力管理体制における行政の概念 (仮)	郭舜 (社会科学研究所)
2009.3.17	課題としての法学：科学・フィクション・プログラム	廣渡清吾 (社会科学研究所)

2) 全所的プロジェクト関係 (再掲)

地域主義比較

(a) 月例セミナーは、以下の通り行った。

年月日	報告者	論 題
2008.5.23	臼井陽一郎	地域主義と環境ガバナンス：EU の気候変動対策を中心に

2008.12.3	Derek Hall	“Food with a Visible Face” : Food Traceability in Japan and Private Governance of the Food System
2009.2.3	滝澤三郎・山影進・清水一史	中村・須網・臼井・佐藤共著『東アジア共同体憲章案』（昭和堂，2008）の批評と討論

(b) 成果の公表と普及

地域主義比較の研究成果を公表し普及するため、所内外のセミナーおよび講演を以下の通り行った。

年月日	開催地	報告者	論 題
2008.11.26	ボローニャ大学 (イタリア)	中村民雄	東アジアとヨーロッパの地域統合における法の役割比較: 東アジア共同体憲章案とリスボン条約 (Comparison of the Role of Law in East Asian and European Integration: Draft East Asian Charter and the Lisbon Treaty)
2008.12.9	社研セミナー	中村民雄	地域主義比較プロジェクト (CERP) の経験と成果

希望学プロジェクト

a) 希望学セミナー

年月日	報告者	テーマ
2008.4.8	中村尚史	釜石調査のとりまとめに向けて
2008.5.20	大沢真理	希望が台無し——逆機能する生活保障システム
2008.6.3	末廣 昭	アジアの幸福と希望：国家の「国民の幸福」戦略と個人の「希望の喪失」の時代

b) 国際会議

希望学国際ワークショップ

<p>法と経済における希望（コーネル大学との共催） 2008年10月14日 国際文化会館</p> <p>Opening Remarks アナリス・ライルズ（コーネル大学法科大学院クラーク極東法学教授） 宮崎広和（コーネル大学人類学科准教授） 玄田有史（東京大学社会科学研究所教授）</p> <p>The Social Obligation Norm in American Property Law グレゴリー・アレクサンダー（コーネル大学法科大学院 A.ロバート・ノール法学教授） コメント： 石川博康（東京大学社会科学研究所准教授）</p> <p>Hope, Migration and Constitution 酒井直樹（コーネル大学アジア研究学科・比較文学科教授） コメント： 阪口正二郎（一橋大学大学院法学研究科教授）</p> <p>Hope and Society in Japan 玄田有史 コメント： スチュアート・シュワブ（コーネル大学法科大学院長）</p> <p>Why Hope Now? The Significance of Hope in Political Theory 宇野重規（東京大学社会科学研究所准教授） コメント： アナリス・ライルズ</p> <p>Reveries before Law: Considering Hope at a Senior Home in Fiji 春日直樹（大阪大学大学院人間科学研究科教授） コメント： 宮崎広和</p> <p>総括 小森田秋夫（東京大学社会科学研究所所長） スチュアート・シュワブ</p>

c) 希望学シンポジウム

福井の希望を考えるフォーラム（福井県との共催）

2008年11月10日 福井県国際交流会館

はじめに

西川一誠（福井県知事）

ご挨拶 小森田秋夫（東京大学社会科学研究所長）

第1部：講演

- ・希望学プロジェクト紹介 宇野重規（東京大学社会科学研究所准教授）
- ・基調講演「希望と変革」 廣渡清吾（東京大学社会科学研究所教授）

第2部：パネルディスカッション

コーディネーター 玄田有史（東京大学社会科学研究所教授）

パネラー 中村尚史（東京大学社会科学研究所准教授）、宇野重規等

地域における希望の再生—希望学・釜石調査報告—

2008年11月16日 釜石市民文化会館・中ホール

ご挨拶 末廣昭

第一部 希望の来歴—歴史

パネリスト： 中村尚史，青木宏之，仁田道夫，宇野重規

第二部 希望をつなぐ—地域社会

パネリスト： 佐藤岩夫，上神貴佳，大堀研

第三部 希望の再生—地域振興

パネリスト： 中村圭介，橋川武郎，大堀研，宮島良明

第四部 希望に向かって—市民の動向

パネリスト： 玄田有史，永井暁子，西野淑美，石倉義博

総括討論

パネリスト： 玄田有史（司会兼任），末廣昭，竹村祥子，中村尚史，宇野重規

ご挨拶 小森田秋夫

希望は終わらない—希望学プロジェクト成果報告会 2005-2008—

2009年3月4日 東京ウィメンズプラザ・ホール

【講演】 「希望学—4年間の軌跡」 玄田有史

【映像】 「映像のなかの希望学」

【鼎談】 「希望学をふりかえって今思うこと」 宇野重規・玄田有史・中村尚史

【リレートーク】 「希望学とは何だったのか」

出演者（アイウエオ順）：

アナリス・ライルズ，岡野八代，春日直樹，草郷孝好，仲正昌樹，中村圭介，仁田道夫，広渡清吾，宮崎広和（他、予定）

司会：玄田有史・宇野重規・中村尚史

【ご挨拶】 小森田秋夫（東京大学社会科学研究所長）

3) その他の研究会

Contemporary Japan Group (現代日本研究会)

Contemporary Japan Group (現代日本研究会) は、社研の外国人教授、研究員、研修員の交流を促進することを目的として 1995 年に作られた。社研に滞在中の研究者をはじめとして、現代日本について広く関心のある滞日中の外国の社会学者、外国でトレーニングを受けた若手研究者に発表の場を提供している。外国の研究者と日本の研究者の国際交流の場としても機能している。

本研究会の特徴は、(1) 発表・議論は英語で行われる点、(2) 社研で客員研究員を経験した海外研究者との連絡を継続化・制度化するために、来日中に随時研究会で発表・参加をもとめている点、(3) 来日予定の第一線の社会学者を随時招待している点にある。

2008 年度は次の 5 回の研究会を開催した。

- 2008 年 5 月 29 日 A Tale of Three Cities: Civil Society and Disaster Recovery in Comparative Perspective
Daniel Aldrich (Assistant Professor, Department of Political Science, Purdue University, U.S.A.)
- 7 月 7 日 Re-Migration of Immigrants and Its Consequences for Japan
Ayumi Takenaka (Assistant Professor, Department of Sociology, Bryn Mawr College, U.S.A.)
- 10 月 2 日 A Closer Look at Academic Achievement of Japanese Students in PISA 2000-06
Hyunjoon Park (Korea Foundation Assistant Professor, Department of Sociology, University of Pennsylvania, U.S.A.)
- 12 月 3 日 “Food with a Visible Face” : Food Traceability in Japan and Private Governance of the Food System
Derek Hall (Associate Professor, Department of Political Science/Balsillie School of International Affairs, Wilfrid Laurier University, Waterloo, Ontario, Canada)
- 2009 年 3 月 16 日 How Do New Industries Emerge? The Case of Japan’s Game Software and Biotech Industry
Cornelia Storz (Professor, Faculty of Economics and Business Administration, Goethe University - Frankfurt, Germany)

Ph.D. Study Group (若手研究者研究会)

Ph.D. Study Group (若手研究者研究会) は、2007 年 1 月より社会科学研究所の客員教授であったジョン・キャンベル (John Campbell) 氏をオーガナイザーとして、博士論文執筆中や教職を得たばかりの若手研究者のためのインフォーマルな研究交流の場として発足した。研究所の所員 (石田浩、グレッグ・ノーブル、前田幸男、山崎由希子) も参加し、毎回報告者の問題提起の後、活発な質疑応答が行われている。

2008 年度は次の 11 回の研究会を開催した。

- April 24, 2008 - Anna Skarpelis, a PhD student in political science at the Max Planck Institute in Cologne: “political participation of old people in Japan, Germany, and the United States”
- May 29, 2008 - Michio Umeda, a graduate student at the University of Michigan: “incumbency advantage in Japanese elections”
- June 26, 2008 - Tuukka Toivonen, a DPhil candidate at the University of Oxford: “precarious youth, precarious policy: Japan’s new challenge of social inclusion,”
- July 31, 2008 - Paul Scalise, a DPhil candidate at the University of Oxford: “policy-making in the field of electrical generation”
- August 28, 2008 - Aaron Miller, a DPhil candidate at the University of Oxford: “models of sports coaching in Japan”
- September 25, 2008 - Yukio Maeda, associate professor of political science, University of Tokyo: “cabinet support polls in Japan”
- November 6, 2008 - Jane H. Yamashiro, a recent PhD at the University of Hawaii, Manoa: “Japanese Americans in Japan”
- December 11, 2008 - Kimiko Osawa, a PhD candidate in political science at the University of Wisconsin, Madison: “backlash against gender inequality”
- January 29, 2009 - Philip Streich, a PhD candidate in political science at Rutgers University: “balance-

of-power in Sengoku Jidai”

February 19, 2009 – Ryan Sayre, a PhD candidate in Anthropology at Yale: “the issue of earthquake disaster preparedness”

March 26, 2009 – Gregory Kasza, professor of political science, Indiana University: “the problems of designing good social science projects related to Japan”

地域主義比較プロジェクト (CREP)

月例セミナー

年月日	報告者	論題
2008.5.23	白井陽一郎	地域主義と環境ガバナンス：EUの気候変動対策を中心に
2008.12.3	Derek Hall	“Food with a Visible Face”：Food Traceability in Japan and Private Governance of the Food System
2009.2.3	滝澤三郎・山影進・清水一史（以上批評者）／中村民雄・須網隆夫・佐藤義明（以上応答者）	中村・須網・白井・佐藤共著 『東アジア共同体憲章案』（昭和堂，2008）の批評と討論

ISS Joint Research Project Discussion Paper

刊行年月	No.	著者名	タイトル
2009.2	No. 24	滝澤三郎・山影進・清水一史・中村民雄・須網隆夫・佐藤義明	中村・須網・白井・佐藤共著 『東アジア共同体憲章案』（昭和堂，2008）の批評と討論

単行本

刊行年月	著者名	タイトル	出版社
2008.7	中村民雄・須網隆夫・白井陽一郎・佐藤義明	東アジア共同体憲章案—実現可能な未来をひらく論議のために	昭和堂
2009.6	Tamio Nakamura ed.	East Asian Regionalism from a Legal Perspective: Current features and a vision for the future	Routledge

2. 出版物

1) 『社会科学研究』

第60巻 第1号（2009年1月発行）

Featured Theme: 〈LIA-CASSH Report 2008〉

Comparative Approaches in Social Sciences and Humanities: A French-Japanese Initiative via Joint International Laboratory between CNRS and University of Tokyo

Introduction	Francois GIPOULOUX and NITTA Michio	1
Project 1. A comparative Approach to Firms’ Productivity Studies in France and Japan		
Post-entry and Pre-exit Performance of French Manufacturing Firms	Flora BELLONE, Patrick MUSSO, Lionel NESTA and Michel QUERE	5
Productivity Convergence at the Firm Level: Effects of Firm-level Productivity Growth in Japan	KIYOTA Kozo, NAKAJIMA Takanobu and NISHINURA Kiyohiko G.	25
Project 2. Labor Institutions in Question: Empirical Comparative Studies of Employment Systems in France and Japan		
Evolution of Japanese Employment Systems in the Lost Decade and After	NITTA Michio	33

Professionals, Production Systems and Innovation Capacities in The Software Industry: A comparison between France and Japan	Caroline LANCIANO-MORANDAT and Hiroatsu NOHARA	43
Project 3. International Trading Hubs in East and Southeast Asia		
Historical Transformatin of Coastal Urban City Networks in East China Sea Zone: From Pusan-Nagasaki-Ryukyuu-Southeast Asia Channel of Yinchon-Shanghai-Kobe Channel.....	HAMASHITA Taeshi	67
Asian Mediterranean: China at the Core of Two Periods of Globalisation (16 th -20 th Century)	francois GIPOULOUX	97
Project 4. New and Old Forms of Corporate Clusters in Asia		
Innovation and Cliusters: TheJapanese Government Policy Framework ..	Akira HATTORI and Yveline LECER	117
The Emergence of Industral Clusters in Wenzhou, China.....	MARUKAWA Tomoo	141

第60巻 第2号 (2009年2月発行)

特集 国際関係法研究動向レビュー

序 文.....	中川淳司	1
行政化する国際経済犯罪規制について.....	山内由梨佳	5
——マナーロンダリング犯罪研究を手がかりとして——		
重大な人権侵害行為に対する国家免除否定論の展開.....	坂巻静佳	33

特集 アメリカ・モデルの福祉国家Ⅱ

序 文.....	渋谷博史	61
アメリカの1990年代の福祉再編.....	根岸毅宏	67
——1995年ヴァージニア州福祉政策と1996年連邦福祉改革——		
アメリカの1990年改正大気浄化法と排出権取引.....	桜井泰典	101
——州・連邦関係と政策形成過程——		
アメリカ型福祉国家と財政規律.....	加藤美穂子, 渋谷博史	143
アメリカ企業年金政策の変質.....	吉田健三	183
——2006年年金保護法の分析から——		
近年におけるアメリカの財団による対外援助の動向.....	河崎信樹	221
日本とドイツにおける介護保険制度成立の政策過程.....	ジョン・クレイトン・キャンベ	249
	(訳) 斉藤臈子	

書 評

『トクヴィル—平等と不公平の理論家』 (宇野重規著)	鏑木雅彦	279
----------------------------------	------	-----

第60巻 第3・4合併号 (2009年2月発行)

特集 ネットワーク型産業における経済規制と産業組織

序 文 特集を編纂するにあたって.....	松村敏弘	1
Competition Review in the Japanese Telecommunications Market.....	林 秀弥	3
ブロードバンド・サービスの需要分析と情報通信政策.....	依田高典	33
複数の潜在的参入企業によるクリーム・スキミング的行為が市場の競争性に及ぼす影響について	石橋郁雄・松村敏弘	51
接続・託送と戦略的インフラ設備投資行動.....	水野敬三	61
部分自由化後の電力小売市場の競争状況に関する実証分析.....	服部 徹	89
ガス事業者・電気事業者間のエネルギー需要スイッチング競争と政策介入のモデル分析 ——「エコウィル」VS 「オール電化」をめぐる——	新海哲也・岡村誠・大川隆夫	103
電力自由化と電源構成.....	猪野弘明・松村敏弘	117

資 料 宇野弘蔵教授を囲む研究会

段階論を巡る研究会記録.....	馬場宏二	141
『経済政策論』について.....		148

宇野弘蔵
遠藤湘吉(司会)
(以下発言順)

武田隆夫, 石崎昭彦
 長坂 聡, 渡辺 寛
 揚井克己, 戸原四郎
 玉野井昌夫, 宇野博二
 藤村幸雄, 徳永重良
 鈴木派鴻一郎, 森 恒夫

宇野「経済政策論」 研究会記録について…………… 戸原つね子 179

第60巻 第5・6合併号 (2009年3月発行)

特集 市民社会論の法律学的射程

序 文……………	広瀬清吾	1
多元的・重層的な市民社会における社会規模の存在様式 ——法律・道徳・慣習の協議——……………	中村浩爾	11
市民法学における「市民」と「市民社会」の基礎法学的考察 ——ルソー, カント, ヘーゲルの思想との関連で——……………	篠原敏雄	45
コモンズ研究のための法概念の再定位 ——社会諸科学との協働を志して——……………	高村学人	81
論 説		
「脱商品化」の視点からみた日本の住宅保障システム……………	佐藤岩夫	117

2) 『社会科学研究所研究シリーズ』 (ISS Research Series)

No.31 (2008年12月発行)

地方政治家の肖像—2006年岩手県釜石市議会議員インタビュー記録

まえがき……………		7
第1章 岩間寛二議員インタビュー記録……………		11
第2章 川崎勇一議員インタビュー記録……………		37
第3章 菊池孝議員インタビュー記録……………		57
第4章 佐々木義昭議員インタビュー記録……………		89
第5章 菅原則夫議員インタビュー記録……………		111
第6章 平舘幸雄議員インタビュー記録……………		133
第7章 平松福一議員インタビュー記録……………		149
第8章 山崎長栄議員インタビュー記録……………		167

No.32 (2009年2月発行)

戦前日本の食品産業

序章 食品産業史の課題と論点……………	加瀬和俊	1
第1章 ビール業における大企業体制の変容……………	大島朋剛	9
第2章 製菓産業の展開と中堅企業の位置……………	大澤 篤	35
第3章 清涼飲料水製造業と行政……………	早川大介	59
第4章 牛乳供給と衛生行政……………	加瀬和俊	85
第5章 缶詰産業の企業化と生産地域の展開……………	高柳智彦	103
第6章 日本製粉業と東アジア小麦粉市場……………	小島康平	129
第7章 東京市における消費組合の発展……………	井内智子	153

No.33 (2009年2月発行)

Preface……………		v
1 Japan's New Party System: Characteristics and Future Perspectives……………	Carmen Schmidt	1
2 Shifting Prime ministerial Power and Its Consequences on Neo-Liberal Reforms in Japan		

.....	Yu Uchiyama	23
3 The 2006 Reform of German Federalism.....	Arthur Benz	39
4 From a Clerk Room to Government Headquarters: The Cabinet Secretariat and Its 'Rotation System' in Transition, 1997-2007.....	Izuru Makihara	55
5 Form Mudding Through to Struggling Through: Political Reforms in Germany.....	Roland Czada	75
6 Pandemonium Uncovered : Reform Process of the Fiscal Investment and Loan Program (FILP) in Japan.....	Kenji Hisashima	93
7 Institutional Change in German Capitalism: Reorganizing the Rules of Corporate Control.....	Susanne Lutz	111
8 Who Liberalizes?: The Politics of Financial Services Reform in Japan.....	Masako Suginozawa	131
9 The Transformation of Policy Regimes : German and Japanese Telecommunication Historical Perspective.....	Volker Schneider	147

No.34 (2009年3月発行)

語り部、支え手、興し手、伝え手たち

第1章 釜石のかたりべに聴く——八幡登志男インタビュー記録.....	9
第2章 釜石の支え手に聴く——森真一郎氏インタビュー記録.....	61
第3章 釜石の興し手に聴く——佐々木荘憲氏インタビュー記録.....	123
第4章 未来を繋ぐ伝え手に聴く①——河合蘭氏インタビュー記録.....	167
第5章 未来を繋ぐ伝え手に聴く②——河合蘭氏インタビュー記録.....	231

3) 『現代中国研究拠点研究シリーズ』

No.3 (2009年3月発行)

大メコン圏 (GMS) を中国から捉えなおす

末廣昭・宮島良明・大泉啓一郎・助川成也・青木まき・ソムポップ・マーナランサン

はじめに

地図1 GMS 全域の地図	ADB.....	1
地図2 GMS 経済回廊の地図	ADB.....	2
写真 北タイ, 昆明	末廣昭.....	3
第1章 GMS をどうとらえるか? メコン河流域開発・国境経済圏・中国の対外戦略	末廣昭.....	9
年表1 GMS, 中国 ASEAN, 東アジア地域協力にかんする年表 1957~2008年	末廣昭.....	62
付録1 GMS 関連の参考文献	末廣昭.....	77
第2章 中国の省・地域と CLMV の貿易関係: World Trade Atlas 2007 の分析から	宮島良明.....	93
第3章 中国・ASEAN 貿易の担い手は誰か? : 貿易結合度指数を用いて	大泉啓一郎.....	113
付録2 中国各省と主要国・地域の輸出・輸入 2000年と2007年	宮島良明.....	133
第4章 ASEAN の FTA 戦略と中国の南進: ジェトロの在アジア・オセアニア日系企業調査から	助川成也.....	139
第5章 タイの対外経済戦略と GMS: グローバリゼーションの対応としての地域協力	青木まき.....	171
年表2 タイの対外政策に関する主要事項年表 1982~2008年	青木まき.....	199
第6章 運輸開発とタイ・雲南省の経済協力の展望	ソムポップ・マーナランサン.....	209

白石昌也, 鈴木基義, 田嶋俊雄氏のコメント

No.4 (2009年3月発行)

中国の産業集積の探究

丸川知雄

はしがき

第1章 産業発展と業界組織—日中自転車産業の比較から	駒形哲也.....	1
----------------------------	-----------	---

はじめに

1. 日本における自転車産業の業界組織

(1) 日本の自転車産業振興の特徴

- (2) 主な業界組織
- (3) 日本における業界組織の役割の変化
- 2. 中国における自転車産業の業界組織
 - (1) 業界組織成立の一般的背景
 - (2) 自転車産業の業界組織の体系
 - (3) 自転車産業の業界組織成立の背景と展開

おわりに

第2章 日本と中国の金属加工産地に関する一試論

丁 可…… 31

はじめに

- 1. 業種転換にみる燕と永康の相違点
 - (1) 燕市における金属加工産業の発展経緯
 - (2) 永康における金属加工産業の発展経緯
- 2. 担い手にみる燕と永康の相違点
 - (1) 燕産地の担い手
 - (2) 永康産地の担い手
- 3. 中小企業支援組織にみる燕と永康の相違点
 - (1) 燕の同業組合
 - (2) 永康の専業市場

おわりに

付表

4) 人材ビジネス（再掲）

1. 人材ビジネス研究寄付部門研究シリーズ

- 佐藤博樹・佐野嘉秀・高橋康二・東秀忠『製品設計分野における技術者派遣企業のキャリア管理(2)―技術者個人アンケート調査から―』東京大学社会科学研究所人材ビジネス研究寄付部門研究シリーズ No. 13, 2008年10月.
- 佐野嘉秀・鹿生治行・高橋康二・山路崇正・中川功一『設計部門における外部人材活用の現状と課題(2)―事例調査編―』東京大学社会科学研究所人材ビジネス研究寄付部門研究シリーズ No. 12, 2008年8月.

2. 人材ビジネス研究寄付部門資料シリーズ

- 佐藤博樹・佐野嘉秀編『人材ビジネスの現状と展望(4)―「第4回人材ビジネスの市場と経営に関する総合実態調査」集計結果―』東京大学社会科学研究所人材ビジネス研究寄付部門資料シリーズ No. 5, 2009年3月.
- 佐藤博樹・佐野嘉秀編『人材ビジネスの現状と展望(3)―「第3回人材ビジネスの市場と経営に関する総合実態調査」集計結果―』東京大学社会科学研究所人材ビジネス研究寄付部門資料シリーズ No. 4, 2008年4月.

3. 部門関連書籍

- 佐藤博樹・佐野嘉秀・藤本真・木村琢磨『パート・契約・派遣・請負の人材活用<第2版>』日経文庫, 日本経済新聞社, 2008年11月.

4. その他刊行物

- 佐野嘉秀「人材ビジネス研究最前線④ 製品開発における派遣技術者の仕事範囲」(連載)『ものづくりサービス』No. 4, 労働新聞社, 2009年3月, 38-40頁.
- 佐野嘉秀・高橋康二「製品開発における派遣技術者の活用―派遣先による技能向上の機会提供と仕事意欲」『日本労働研究雑誌』582号, 労働政策研究・研修機構, 2009年1月, 13-28頁.
- 松浦民恵「派遣労働者のキャリア形成に向けて―ヒアリング調査による考察」『日本労働研究雑誌』582号, 労働政策研究・研修機構, 2009年1月, 29-39頁.
- 木村琢磨「製造業務請負の事例に見る業務請負適正化の課題」『日本労働研究雑誌』582号, 労働政策研究・研修機構, 2009年1月, 40-50頁.
- 中道麻子「フランスにおける派遣社員への職業能力開発支援の取り組み」『日本労働研究雑誌』582号, 労働政策研究・研修機構, 2009年1月, 51-63頁.

- 佐藤博樹「特別企画 座談会 2009年問題とものづくりサービスの今後」『ものづくりサービス』No.3, 労働新聞社, 2009年1月, 12-21頁.
- 木村琢磨「人材ビジネス研究最前線③ 製造業務請負業の経営管理 これまでと今後」(連載)『ものづくりサービス』No.3, 労働新聞社, 2009年1月, 39-40頁.
- 高橋康二「人材ビジネス研究最前線② 派遣技術者のモチベーションを高めるために必要なことは何か」(連載)『ものづくりサービス』No.2, 労働新聞社, 2008年10月, 38-40頁.
- 佐藤博樹「2008人材ビジネスフォーラム:総括 シンポジウムに参加して」『ものづくりサービス』No.2, 労働新聞社, 2008年10月, 26頁.
- 佐野嘉秀「2008人材ビジネスフォーラム:人材ビジネスのこれからの人材戦略」『ものづくりサービス』No.2, 労働新聞社, 2008年10月, 27頁.
- 佐藤博樹・佐野嘉秀「2008人材ビジネスフォーラム:パネルディスカッション「人材ビジネスにおける今後のビジネスと人材活用」」『ものづくりサービス』No.2, 労働新聞社, 2008年10月, 29-35頁.
- 佐藤博樹「人材派遣という働き方の「現在」を読み解く」『Vistas Adecco』Vol.5, アデコ株式会社, 2008年10月, 4-7頁.
- 佐野嘉秀「人材ビジネス研究最前線① 生産分野における若年層の請負・派遣スタッフのキャリア」(連載)『ものづくりサービス』創刊号, 労働新聞社, 2008年8月, 32-34頁.
- 佐藤博樹「法遵守に加えて、ものづくり基盤を支える人材活用を」『ものづくりサービス』創刊号, 労働新聞社, 2008年8月, 2頁.
- 佐藤博樹「サービス提供責任者こそ介護のマネージャー」『季刊へるば!』Vol.1創刊号, 財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会, 2008年夏, 12-13頁
- 堀田聰子「堀田聰子のサービス提供責任者フィールドワーク」(連載)『介護ビジョン』第58号より12回, 日本医療企画, 2008年3月~継続.
- 堀田聰子「サービス提供責任者のヘルパーマネジメント塾」(連載)『訪問介護サービス』第5巻第2号より6回, 日総研, 2008年1月~継続.

5) Discussion Paper Series

日本語シリーズ (J)

- J159 高槻泰郎 『近世日本米市場の制度的基礎』—取引統治機構を中心として— (2008年4月)
- J160 森本真世 『技術進歩と組織変化』—筑豊炭鉱業における直接雇用の成立— (2008年4月)
- J161 渋谷博史 『日本財政の分析視角(1)』 (2008年4月)
- J162 高槻泰郎 『近世的政策金融の終焉』—山口県上関町の質物金融— (2008年5月)
- J163 森田 修 『契約総側上の制度としての代金減額』—再警報成立作業の文脈化のために— (2008年5月)
- J164 渋谷博史・加藤美穂子 『日本財政の分析視角(2)』 (2008年6月)
- J165 田嶋俊雄 『中国の食糧需給と構造調整・貿易戦争・農家経済』 (2008年8月)
- J166 中村尚史 『世紀転換期における機関車製造業の国際競争』 (2008年7月)
- J167 高槻泰郎 『米切手再考』—米切手停止令の意義— (2008年8月)
- J168 中村尚史 『「地方財閥」の誕生』—安川敬一郎の事業活動と資産形成』 (2008年8月)
- J169 高槻泰郎 『禁制米市場の階層性』—大阪堂島米会所と大津御用米会所— (2008年9月)
- J170 田中 光 『明治期郵便貯金制度の歴史的展開』—大衆資金動員システム形成に関する試論— (2008年9月)
- J171 結城武延 『資本市場と金融統治』—近代日本の綿紡績企業における成長戦略— (2008年9月)
- J172 金成 垣 『日本における福祉国家研究』 (2008年9月)
- J173 岡部恭宣 『金融システムの多様性とその政治的起源』—韓国, タイ, メキシコの比較歴史分析— (2008年12月)

外国語シリーズ (F)

- F137 樋渡展洋 Identifying the Domestic Anchors of U. S. Foreign Policy: Agenda setting, Partisan strategies, and ends-meet-the-center voting (2008年6月)
- F138 樋渡展洋 International Recessions, Disinflationary Constrains and Employment Adjustment: The implications of Japan's deficit Spending during the 1990s recession (2008年6月)
- F139 田嶋俊雄 「軟件服務外包業的雁行発展—人力資本和産業集聚—」 (2008年6月)

- F140 田嶋俊雄 「劉易斯転折点と中国的農業農村経済問題」 (2008年6月)
- F141 高槻泰郎 Informational Efficiency under the Shogunate Governance: Concentration and Integration of the Rice Market in Tokugawa Japan
- F142 中林真幸 Imposed efficiency of the Treaty Port: Japanese industrialization and Western imperialist institutions
- F143 高槻泰郎 Peasant economy in the 'debate on Japanese capitalism': Tenancy contract facing the 'Turning Point'

6) 全所的プロジェクト研究関係

希望学プロジェクト

単行本

刊行年月	編者	タイトル
2009.4	東大社研・玄田有史・宇野重規編	希望学1 『希望を語る——社会科学の新たな地平へ』 東京大学出版会
2009.5	東大社研・玄田有史・中村尚史編	希望学2 『希望の再生——釜石の歴史と産業が語るもの』 東京大学出版会
2009.6	東大社研・玄田有史・中村尚史編	希望学3 『希望をつなぐ——釜石からみた地域社会の未来』 東京大学出版会
2009.7	東大社研・玄田有史・宇野重規編	希望学4 『希望のはじまり——流動化する世界で』 東京大学出版会

Research Series

刊行年月	編者	タイトル
2008.10	上神貴佳	地方政治家の肖像——2006年岩手県釜石市議会議員インタビュー記録 東京大学社会科学研究所
2009.3	玄田有史編	希望をめぐる対話——かたりべ、支え手、興し手、伝え手たち 東京大学社会科学研究所

Discussion Paper

刊行年月	No.	著者名	タイトル
2008.7	No. 54	梅崎修	新日鐵釜石製鉄所0B調査 小笠原勇三・新沼司 オーラル・ヒストリー
2008.7	No. 55	梅崎修・青木宏之	新日鐵釜石製鉄所0B調査 木村一(大形工場) オーラル・ヒストリー
2008.7	No. 56	玄田有史・永井暁子	河合蘭 インタビュー記録
2008.8	No. 57	玄田有史・石田直子	河合蘭 インタビュー記録II
2008.8	No. 58	仁田道夫・中村圭介・玄田有史・宇野重規・中林真幸	二宮宣文 インタビュー記録I
2008.8	No. 59	中村圭介	二宮宣文 インタビュー記録II
2008.9	No. 60	中村圭介	二宮宣文 インタビュー記録III
2008.9	No. 61	中村圭介	二宮宣文 インタビュー記録IV
2009.5	No. 62	大堀研	ローカル・アイデンティティ概念の検討

7) 所員の著書

* 2008年度に刊行された所員(下線)の単著・共著(編著, 訳書を含む。科学研究費補助金の報告書, 各種研究会の報告書などは除く。50音順)

上野千鶴子・大熊由紀子・大澤真理・神野直彦・副田義也(編)『ケアその思想と実践1 ケアという思想』岩波書店, 2008年4月

上野千鶴子・大熊由紀子・大澤真理・神野直彦・副田義也(編)『ケアその思想と実践2 ケアという思想』岩波書店, 2008年5月

上野千鶴子・大熊由紀子・大澤真理・神野直彦・副田義也(編)『ケアその思想と実践3 ケアという思想』岩波書店,

2008年8月

上野千鶴子・大熊由紀子・大澤真理・神野直彦・副田義也（編）『ケアその思想と実践 4 ケアという思想』岩波書店，2008年9月

上野千鶴子・大熊由紀子・大澤真理・神野直彦・副田義也（編）『ケアその思想と実践 5 ケアという思想』岩波書店，2008年6月

上野千鶴子・大熊由紀子・大澤真理・神野直彦・副田義也（編）『ケアその思想と実践 6 ケアという思想』岩波書店，2008年7月

大瀧雅之（編）『平成長期不況 政治経済学的アプローチ』東大出版会，2008年7月

工藤章・井原基（編）『企業分析と現代資本主義』ミネルヴァ書房，2008年5月

金成垣〔著〕『後発福祉国家論 比較のなかの韓国と東アジア』東大出版会，2008年11月

佐藤博樹・連合総合生活開発研究所（編）『バランスのとれた働き方 ―不均衡からの脱却―』エイデル研究所，2008年4月

佐藤博樹（編著）『パート・契約・派遣・請負の人材活用 <第2版>』（日経文庫）

佐藤博樹・武石恵美子（編）『人を活かす企業が伸びる 人事戦略としてのワーク・ライフ・バランス』勁草書房，2008年11月

田中信行・渠濤（編）星野英一・梁慧星（監修）『中国物件法を考える』商事法務，2008年9月

鶴光太郎・樋口美雄・水町勇一郎（編著）『労働市場制度改革』日本評論社，2009年3月

筒井淳也・石田光規・桜井政成・三輪哲・土岐智恵子（訳）ナン・リン（著）『ソーシャル・キャピタル 社会構造と行為の理論』ミネルヴァ書房，2008年7月

中川淳司〔著〕『経済規制の国際的調和』有斐閣，2008年8月

中川淳司・寺谷広司（編）『国際法学の地平 歴史、理論、実証 大沼保昭先生記念論文集』東信堂社，2008年11月

中村民雄・須網隆夫・臼井陽一郎・佐藤義明〔著〕『東アジア共同体憲章案 実現可能な未来をひらく論議のために』昭和堂，2008年7月

仁田道夫・久本憲夫『日本的雇用システム』ナカニシヤ出版，2008年12月

広渡清吾〔著〕『知的再生産構造の基盤変動』信山社，2009年3月

広渡清吾〔著〕『比較法社会論的研究』日本評論社，2009年3月

丸川知雄・中川涼司（編著）『中国発・多国籍企業』同友館，2008年11月

水町勇一郎（編著）『事例演習労働法』有斐閣，2009年3月

森戸英幸・水町勇一郎（編著）『差別禁止法の新展開 ダイヴァーシティの実現を目指して』日本評論者，2008年9月

両角道代・森戸英幸・梶川敦子・水町勇一郎〔著〕『労働法』有斐閣，2009年3月

3. 社会との連携

1) 所員の参加している学会一覧

アメリカ学会	アジア政経学会	関東社会学会	韓国 NPO 学会
漁業経済学会	金融学会	経営史学会	経済史学会
現代史研究会	行動経済学会	国際開発学会	国際経済学会
国際経済法学会	国際政治学会	国際ビジネス研究学会	国際法学会
国際法協会	国際労働法社会保障法学会	災害復興学会	産業学会
ジェンダー史学会	ジェンダー法学会	社会経済史学会	社会政策学会
「社会体制と法」研究会	信託法学会	数理社会学会	政治経済学
政治思想学会	世界法学会	全国憲法研究会	組織学会
ソビエト史研究会	大学評価学会	タイ学会	地域安全学会
中国経営管理学会	中国経済学会	鉄道史学会	東欧史研究会
東京都立大学社会学研究会	東南アジア学会	東北社会学研究会	土木学会
日独社会科学学会	日独法学会	日仏法学会	日米法学会

日本 EU 学会	日本 NPO 学会	日本家族社会学会	日本〈家族と法〉学会
日本環境法政策学会	日本キャリアデザイン学会	日本教育社会学会	日本経営学会
日本経済学会	日本建築学会	日本現代中国学会	日本公共政策学会
日本史研究会	日本高等教育学会	日本行動計量学会	日本国際経済学会
日本財政学会	日本数理社会学会	日本私法学会	日本社会学会
日本社会政策学会	日本女性学会	日本地方財政学会	日本政治学会
日本政治研究学会	日本選挙学会	日本台湾学会	日本都市計画学会
日本地域福祉学会	日本中小企業学会	日本ドイツ学会	日本統計学会
日本土地法学会	日本農業経済学会	日本農業法学会	日本比較政治学会
日本評価学会	日本福祉社会学会	日本不動産学会	日本法社会学会
日本保健医療社会学会	日本法哲学会	日本マンション学会	日本労使関係研究協会
日本法と経済学会	日本労働法学会	日本労務学会	農村計画学会
比較家族史学会	比較経済体制学会	比較法学会	フェミニスト経済学日本フォーラム
民主主義科学者協会法律部会	歴史学研究会	ロシア史研究会	ロシア東欧学会
American Economic Association	American Economic Society	American Political Science Association	American Sociological Association
American Society of International Law	Asian Society of International Law	Asian WTO Research Network	Association for Asian Studies
Association of Business Historians	British Sociological Association	Center for Congressional and Presidential Studies	Center for the Study of the Presidency
Comité Européen de Droit Rural	Deutsche Vereinigung für Politische Wissenschaft	Econometric Society	Euro-Asian Management Studies Association
European Association for Research in Industrial Economics	European Business History Association	European Economic Association	Gesellschaft fuer Rechtsvergleichung
Industrial Relations Research Association	Instituto di Diritto Agrario Internazionale e Comparato	International Association for Feminist Economics	International Association of Constitutional Law
International Political Science Association	International Sociological Association	International Studies Association	Kórean Sociological Association
Labor and Employment Relations Research Association	Law and Society Association	Midwest Political Science Association	Royal Economic Society
Society of International Economic Law	Southern Political Science Association	UACES	Union Mondiale des Agraristes niversitaires
Western Political Science Association			

2) 所員の参加した審議会・委員会等一覧（構成員となっている審議会・委員会等名）

参議院	厚生労働委員会調査室客員調査員
内閣	社会保障国民会議所得確保・保障（雇用・年金）分科会参加
内閣	社会保障国民会議所得確保・保障（医療・介護・福祉）分科会参加
内閣府	男女共同参画会議議員
内閣府	統計委員会基本計画部会第3ワーキンググループメンバー
内閣府	仕事と生活の調和室点検・評価ワーキンググループ委員
内閣府	規制改革会議専門委員（ネットワーク産業TF分野における規制改革に関する調査）
内閣府	統計委員会統計委員会専門委員
日本学術会議	日本学術会議会員
日本学術会議	日本学術会議連携会員

警察庁	入札等監視委員会委員
総務省	職業分類検討委員会委員
総務省	自治行政局技能労務職員の給与に係る基本的考え方に関する研究会研究会参加
総務省	総合通信基盤局インターネット政策懇談会懇談会メンバー
総務省	総合通信基盤局電気通信サービスに係る料金政策の在り方に関する研究会参加
総務省	統計局統計調査部雇用失業統計研究会委員
総務省	統計データの二次利用促進に関する研究会委員
法務省	平成 20 年新司法試験考査委員
法務省	民事局民法第 3 編（債権法）改正作業準備調査員
財務省	財務総合政策研究所特別研究官
財務省	財務総合政策研究所グローバル化と我が国経済の構造変化に関する研究会メンバー
文部科学省	生涯学習政策局文部科学省統計調査協力者統計分析アドバイザー
厚生労働省	中央労働委員会公益委員
厚生労働省	厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）に係る事前企画評価委員会委員
厚生労働省	労働政策審議会職業能力開発分科会委員
厚生労働省	労働政策審議会雇用均等分科会委員
厚生労働省	今後の労働関係法制度をめぐる教育の在り方に関する研究会委員
厚生労働省	雇用均等・児童家庭局社会保障審議会少子化対策特別部会臨時委員
厚生労働省	雇用均等・児童家庭局パートタイム労働法研究会研究参加
厚生労働省	雇用均等・児童家庭局今後の仕事と家庭の両立支援に関する研究会参集者
厚生労働省	職業安定局介護分野における雇用管理モデル検討会（施設系）参集者
厚生労働省	職業安定局労働政策審議会障害者雇用分科会公益代表臨時委員
厚生労働省	職業安定局介護労働者の確保・定着等に関する研究会参加
厚生労働省	職業安定局有期契約労働者の雇用管理の改善に関する研究会委員
厚生労働省	職業能力開発局労働政策審議会職業能力開発分科会公益代表委員
厚生労働省	職業能力開発局障害者職業能力開発推進会議参加
厚生労働省	老健局「安心と希望の介護ビジョン」会議参加
厚生労働省	老健局社会保障審議会（介護給付費分科会）専門委員
東京労働局	第 4 期東京地方労働審議会委員
東京労働局	仕事と生活の調和推進会議委員
経済産業省	独立行政法人評価委員会臨時委員
経済産業省	経済産業政策局産業構造審議会臨時委員
経済産業省	経済産業政策局ジョブカフェ評価委員会委員
資源エネルギー庁	低炭素電力供給システムに関する研究会委員
資源エネルギー庁	総合資源エネルギー調査会臨時委員
資源エネルギー庁	電力・ガス事業部水力発電に関する研究会委員
国土交通省	建設市場整備課公共工事設計労務単価のあり方検討会委員
東京都	教育庁中学生の職場体験推進協議会委員
東京都	産業労働局東京都若者就業支援プロジェクト事業選定委員会委員
神奈川県	教育委員会教育局研究開発学校の指定に伴う県立田奈高等学校の運営指導委員会委員
静岡県	静岡アジア・太平洋学術フォーラム実行委員会委員
富山県	青少年健全育成審議会委員
杉並区	教育委員会学校運営協議会委員
福岡市	福岡市コンプライアンス推進委員会 専門アドバイザー委員

3) 社会科学を語る夏のワークショップ 2008

2007 年度より、社会科学研究所では社会との連携を図る活動のひとつとして、高校教員を主な対象とするワークショップを開催することとなった。これは、「社会」について高校生に何をどう教えるべきかという課題に日々直面してい

る高校教員の方々に、社会科学研究所スタッフの研究の成果を伝えながら、同時に、研究スタッフも高校教員の方々から、高校生の社会認識や、それにはたらきかける実践について教えていただき、相互に交流することを目的としたものである。2007年度は「<ヨーロッパ>のいまを読み解く」をテーマとして、8月2日（木）・3日（金）の2日間の日程で開催された。

第2回となる2008年度には「いま働くこととは？」をテーマに、7月30日（水）・31日（木）の2日間にわたって開催された。

プログラムと担当者は以下の通りである。

- 7月30日 「高校生の仕事道（しごとみち）」（玄田有史教授）
「<働くこと>と<働かないこと>——そのあいだにあるパート・フリーター」（水町勇一郎准教授）
- 7月31日 「労使関係と希望」（仁田道夫教授）
「いまなぜワーク・ライフ・バランス社会をめざすのか：働き方の改革と女性の活躍の場の拡大」（佐藤博樹教授）
総括討論（コーディネーター：宇野重規准教授・佐藤香准教授）

各講義の前後には参加者の自己紹介を兼ねたウォームアップおよび質疑応答がおこなわれ、その司会は宇野重規准教授と佐藤香准教授がつとめた。また、2日目の最後には総括討論がおこなわれ、ここでは活発な意見の交換がなされた。

2日間の参加人数は、高校教員34名、その他6名の計40名となった。34名の高校教員の過半数が教員暦21年以上のベテランであり、その担当教科は、社会科24名、国語5名、英語4名、数学1名であった。

<2008年度ワークショップ参加者へのアンケートから>

◇ 今回ワークショップに参加した動機は何ですか。（あてはまるもの2つ以内に○をつけてください）

	全回答者		うち高校所属者	
知識を増やして授業に生かすため	27	41%	25	46%
教えるノウハウを得るため	4	7%	4	7%
自分の研究のため	14	24%	12	22%
大学スタッフと交流するため	4	7%	3	6%
他校の教員と交流するため	3	5%	3	6%
その他	8	14%	5	9%
（無回答）	2	3%	2	4%

・「その他」には、キャリア教育について知るため、テーマ（働くこと）に関心があったため、現在における労働について大学の研究成果を知るためなどがある。

◇ 今回のワークショップには、勤務先から認められた研修として参加されましたか、それとも休暇を利用して参加されましたか。

	全回答者		うち高校所属者	
研修	27	67.5%	25	74%
休暇	8	20.0%	8	23%
その他	5	12.5%	1	3%
計	40	100.0%	34	100%

・「その他」には、本来業務、出張などがある。

◇ 今回のワークショップへの感想・評価として、以下の各項目であてはまるもの1つに○をつけてください。

今後の授業に役立ちそうか	全回答者		うち高校所属者	
そう思う	18	45.0%	16	47%
どちらかといえばそう思う	14	35.0%	11	32%
どちらかといえばそう思わない	4	10.0%	4	12%
そう思わない	2	5.0%	2	6%
わからない	1	2.5%	0	0%
（無回答）	1	2.5%	1	3%
計	40	100.0%	34	100%

よい知的刺激を受けた	全回答者		うち高校所属者	
そう思う	36	90.0%	30	88%
どちらかといえばそう思う	3	7.5%	3	9%
どちらかといえばそう思わない	0	0%	0	0%
そう思わない	1	2.5%	1	3%
わからない	0	0%	0	0%
計	40	100.0%	34	100%

また参加したいと思う	全回答者		うち高校所属者	
そう思う	35	87.5%	29	85%
どちらかといえばそう思う	2	5.0%	2	6%
どちらかといえばそう思わない	0	0%	0	0%
そう思わない	1	2.5%	1	3%
わからない	2	5.0%	2	6%
計	40	100.0%	34	100%

- ◇ 今後このようなワークショップがおこなわれるとしたら、どのようなものが望ましいでしょうか。それぞれについて、あなたのお考えに近いもの1つに○をつけてください。

期間	全回答者		うち高校所属者	
丸1日で終わるワークショップ	10	25.0%	9	26%
2～3日の集中講義型	27	67.5%	23	68%
毎日2時間程度の講義が1週間続くワークショップ	0	0%	0	0%
その他	1	2.5%	1	3%
(無回答)	1	2.5%	0	0%
(無効)	1	2.5%	1	3%
計	40	100.0%	34	100%

・「その他」には、1週間集中講義などがある。「無効」は2つに○をつけたもの。

進め方	全回答者		うち高校所属者	
講義中心	4	10.0%	4	12%
ディスカッション中心	0	0%	0	0%
講義とディスカッションの併用	33	82.5%	28	82%
(無回答)	2	5.0%	1	3%
(無効)	1	2.5%	1	3%
計	40	100.0%	34	100%

- ◇ 今後のワークショップでは、どのようなトピックを取り上げてほしいですか。

1	社会で問題視されている事や高校生に語りたい内容に特化したら・・・具体的なものが出ないでスミマセン。
2	世界の教育論（流れと今後）
3	採用
4	企業論
5	日本とイラクにおける敗戦後の米国による支配について
6	各国の教育事情
7	社研で共同研究をやられている内容について順次取り上げてほしい。刊行物とあわせてより深い理解が得られると思います。
8	国際経済に関する分野
9	転換期にある日本社会を政治・経済・文化・・・多角的な視点で分析する試みがありがたいですね
10	少子高齢化と社会保障
11	外国人労働者と移民政策
12	財政危機と財政再建の方向性
13	大学改革（初年度教育、キャリア教育など）
14	スクールソーシャルワークに代表させる学習支援システムについて
15	グローバリズムとナショナリズム
16	「失われた10年」によって日本社会はどう変容したか
17	学校現場の分析、問題点を社会研究の立場から一般社会とは違った学校社会の独特の状況、論理を調査、研究してみたいです。今、教育現場は大きな変化が起きています。
18	会計学的視点の重要性など
19	生存権の問題（生存権の教育など）

20	憲法をめぐる諸問題
21	格差
22	内なる国際化
23	‘地方’で生きるために. ‘地方’を創る人材を高校(または小・中・高)でいかに育てるか.
24	若年者の就業意欲の向上についてどうしたらよいのかなど.
25	キャリア教育や総合学習に関する内容でまたお願いしたい.
26	格差社会, ワーキングプアの問題
27	株式や金融に庶民は関わるべきだろうか. 今後の経済はどうなるのだろうか. 社会福祉はどうなるのだろうか. 協調主義経済はまずいのだろうか. フリーターでも一生涯生きられる社会になるのだろうか. ものづくりから金融経済へ
28	子どもたちの国語力の低下と学力低下の関連性について(多くの教員が感じていることだと思います).
29	グローバリゼーションと反グローバリゼーション(ラテンアメリカの動向, 反WTO・・・)
30	差別問題(女性, 外国人, 障がい者など)
31	もう一度「働くこと」をテーマとしていただきたい.
32	「キャリア教育」につながる「自己発見」「自分さがし」など
33	成果主義の問題
34	働くこと, キャリア教育以外は, 今はあまり興味がありません. 今回もテーマで参加することを決めました. 他のテーマだったら開催していることも知らなかったと思います.

4) 2008年度 釜石市民への協力(希望学プロジェクト)

月日	氏名	役割	報告等タイトル	イベント名	主催	対象
2008.7.23	玄田有史	講演	地域コミュニティの現状と課題について	地域づくり希望セミナー 第1回	岩手県釜石地方振興局	釜石市民
2008.7.23	宇野重規	コーディネーター	地域コミュニティの再生について	地域づくり希望セミナー 第1回	岩手県釜石地方振興局	釜石市民
2008.10.12	中村圭介	講演	釜石再生のキーワード	講演会	釜石ユネスコ協会	ホテル サンプルト釜石
2008.10.23	中村圭介	講演	鉄の町釜石の再生	講演会	ガルバート・ジャパン	鐵の歴史館
2008.11.13	大堀 研	コーディネーター		地域づくり希望セミナー 第3回	岩手県釜石地方振興局	釜石市民
2008.12.03	大堀 研	講師	釜石市のローカル・アイデンティティについて	釜石小中学校教務主任協議会研修会	釜石小中学校教務主任協議会	同協議会
2009.1.19	大堀 研	アドバイザー		釜石・大槌地域希望創造ワークショップ第1回	岩手県釜石地方振興局	釜石市民
2009.2.10	大堀 研	講師	公民館事業からまちづくりへ	平成20年度公民館等研修会	大船渡教育事務所	大船渡市等の公民館職員
2009.2.27	大堀 研	コーディネーター		釜石・大槌地域希望創造ワークショップ第2回	岩手県釜石地方振興局	釜石市民
2009.4	橋川武郎	報告者	地域からの経済再生と雇用創出	岩手日報社「岩手情報文化研究会」定例研究会	岩手日報社「岩手情報文化研究会」	同研究会メンバー

4. 広 報

社会科学研究所の広報のチャンネルには, まず冊子として『東京大学社会科学研究所年報』がある. さらに社研のホームページには研究会・人材公募, 投稿要綱など有用な情報をアップしており, ホームページ上で公開している情報としては下記のようなものがある.

研究会案内

所員のメディアでの発言

人材公募状況

『社会科学研究』公募募集

社会科学研究所の概要

刊行物一覧

自己点検

外部評価

全所的プロジェクト研究, グループ共同研究

社研(月例スタッフ)セミナー, 社研シンポジウム

大学院教育

日本社会研究情報センターと SSJ データアーカイブ

外国人客員教授

Social Science Japan Journal (SSJJ)

Social Science Japan Newsletter (SSJ)

学術交流協定

また、電子メールによる「社研メールニュース」を発行しており、社研メールニュースは、所内で開催される研究会、所または所員による刊行物、SSJ データアーカイブ、その他の社会科学研究所に関する情報を掲載し、おおむね 1 か月に 1 度配信される。受信希望者は、ホームページ上に設けられた URL から登録することができる。